

区政運営の基盤



1 土地利用

現状 特性と 課題

- 中央区は、市街化が進み、その多くが住宅用地、商業用地、道路・公共公益用地として土地利用され、まちなみが形成されていることに特徴があります。土地利用については、こうした現状を踏まえ、鳥屋野潟南部の未利用地のほか、市街地に連たんしている施設のなかで生じた大規模跡地（旧中央卸売市場、小学校及び中学校など）の活用方法などを考慮しながら検討する必要があります。

まち づくりの 方針

<行政資源の有効活用>

- 土地利用については、鳥屋野潟南部の拠点化を進めるほか、学校の統廃合などにより生じた大規模跡地の利活用など、その位置や地理的特性に配慮するとともに、地域ニーズも把握しながら、将来のまちづくりを見据えた検討を進めます。

2 公共施設

現状 特性と 課題

- 施設の老朽化や少子高齢化をはじめとする人口構成の変化などを踏まえ、持続可能で効果的な行政サービスを提供していくためには、行政機能のさらなる効率化・適正化に加え、区民の利便性の向上などの観点が必要となります。
- 中央区には、人口減少が進んでいる地区がある一方で、大規模な宅地開発が進み、人口増が見込まれる地域もあります。今後、住民サービスをより効果的・効率的に提供していくためには、財産の効率化を図り区域全体での人口動態と公共施設配置のバランスに配慮する必要があります。

<行政機能のあり方の検討>

- 持続可能で効果的な行政サービスを提供するため、区民の利便性の向上や地域活動の場などを考慮しながら、行政サービス機能の効果的な集約・再編を検討し、環境が整ったものから実施します。
- 居住人口や交流人口をはじめとする人口動態に配慮するとともに、限られた資源のなかでの効果的・効率的な行政サービスの提供という観点から公共施設の適正配置に努めます。

3 行政サービス

現状 特性と 課題

- 多くの人々が利用する区役所として、親切・丁寧な対応を徹底することや、窓口の利便性を高めることで、市民満足度の向上を図る必要があります。
- 多くの外国人が暮らし、訪れるまちとして、多様な文化をもつ人々が行き交い、共に生きる多文化共生のまちづくりを進める必要があります。
- 社会情勢の変化に伴い、多様で広範な行政情報を区民へ迅速、的確に伝えていくため、情報発信の手段を工夫していく必要があります。



総合案内「なじらねサポーター」

区別 外国人人口と割合



出典：H23年までは外国人登録者数、H24年以降は住民基本台帳人口（外国人）
資料：新潟市（住民基本台帳人口 H25.12末）

<質の高い行政サービスの提供>

- 区役所を訪れた人にとって、わかりやすいレイアウトの導入や、なるべく一つの窓口で多くの手続きができるような仕組みづくりなど、窓口改善運動を継続していきます。
- 多文化共生のまちづくりを目的に、外国人に向けた情報発信や、公共施設サインの外国語表記などの充実を図ります。
- 障がい者・高齢者への配慮やICT（※）の活用など、社会環境の変化や情報通信技術の進展に対応した多様な広報手段により、誰もが入手しやすい情報発信に努めます。

※Information and Communication Technology
情報（information）や通信（communication）に関する技術の総称



区役所庁舎入口 広告付き地図情報システム